

都市部緑化におけるハチの巣対策

□ 都心部で検討の必要な蜂の巣

都心部では、歩行者等に悪い印象を与える事に対して検討の必要なハチは、アシナガバチとスズメバチの一部があります。

ほとんどの行政機関では、ハチを益虫ととらえ共生の立場（※）をとっています。行政機関の多くは、スズメバチについては駆除や専門業者の紹介を行っていますが、攻撃性の弱いアシナガバチについてはハチの駆除の支援や推奨をしていません。

しかし、都心部ではハチに不快感・恐怖感を感じる人もおり、蜂さされ被害のリスク低減のため、ビル緑化にできる蜂の巣は駆除の方が無難と思われれます。

※千代田区ホームページより：

ハチの生態について知っていれば、ハチの巣があることをいたずらに怖がる必要はなく、むしろハチがいることで害虫が減ることから、ハチとの共生という選択も考えるようになることでしょう。

□ 都心に営巣するハチの種類と営巣場所

営巣場所から見ると、都心での樹木の開放空間（樹枝や葉の裏、軒下）に営巣する種類は、コガタスズメバチ、キイロスズメバチ、アシナガバチが大半です。そのなかでも、都内で見られるスズメバチの多くはコガタスズメバチです。

営巣された場所が軒下にも多く樹木の種類は多岐にわたること（※）から、特定の樹種に営巣するのではなく、巣を保持したり風雨を避けるのに適しているという環境に営巣していることがわかります。

※都市のスズメバチ（山内博美著）：

コガタスズメバチは開放的な場所に営巣する。名古屋市の例では、約 80%が樹木に、残り 20%が家屋に巣を作った。樹木の種類は 100 種以上と多岐にわたっているが、特定の樹木に高い割合で営巣する傾向がみられる。サザンカが最も多く、以下ツバキ、ツツジ、キンモクセイの順となっている。これらの樹木は樹高が中程度で枝を密に出す常緑の広葉樹である点で共通しており、巣を保持したり風雨を避けるのに適している他、外部から巣を隠すのにも都合が良いためと思われる。また、生け垣や庭木に利用される機会が多いことも、営巣事例が多い理由として考えられる。

□ 都心に営巣するハチの餌場と営巣期間

スズメバチの餌場は、幼虫の餌の肉団子を作るための各種の昆虫やクモの他に、樹液と花の蜜があります。スズメバチやアシナガバチが樹液を求めて集まる樹種としては、樹液の出やすいアベマキやコナラが有名ですが、他の樹液にもやってきます。スズメバチは舌が短いため、蜜腺が露出する花（小さな花が密集したような花）にやってきます。

営巣期間は、アシナガバチは4月上旬から営巣を開始し9月に営巣完了します。スズメバチは4月下旬から5月上旬に営巣を開始、9月に営巣が完了し11月頃まで活動します。ハチの巣は先ず女王バチが春先から1匹で巣作り（とっくりを逆さにしたような形）を始めます。働きバチが誕生する6月・7月頃から巣（うろこ模様）は大きくなり始め、9月に最も大きくなります。

□ 都心でのハチに対する対策

スズメバチ、アシナガバチの営巣地や採餌地は特定の樹木や草花には限定できないため、それらの排除によることで対象となるハチを近づけないことは不可能です。計画時点での対策として、葉密度が特に低い樹木のみ緑化や過剰な刈込という対策が考えられますが、緑化の目的が達成できなくなります。

都市緑化におけるハチ対策は、ハチが本格的に活動する前の営巣早期に目視点検を行い、見つけた場合に「蜂の巣」除去（※）を行うこととなります。

※早期「蜂の巣」除去対策

コガタスズメバチの女王バチは4月下旬から5月中旬にかけて単独で巣作りをし、働きバチの羽化する6月中旬までは「とっくり」を逆さにしたような形をしています。その期間は、女王バチの1匹しかいないことや、巣は大きくなならないことで、建築物の緑化内では容易に発見・除去作業が行えます。アシナガバチにおいても同時期に同じことが言えます。営巣場所は常緑広葉樹が多いですが特定の樹種や人造物に限らないため、見通しの悪い樹種、軒等の全ての目視点検を行う必要があります。



↑軒下のコガタスズメバチの巣（初期：4～6月中旬）

↑夏～秋の巣